



# 蒼穹

あおぞら

八戸市立長者中学校  
学校だより 第14号  
文責:石毛 清八  
平成29年11月 7日  
TEL(0178)43-4871

## 議長のリーダーシップと活発な話し合い活動に称賛の声 八戸市中教研特別活動・キャリア教育部会研究協議会

1日、本校を会場に、市内から多数の先生方をお迎えし、第59回八戸市中学校教育研究協議会(特別活動・キャリア教育部会)が行われ、各学年1クラスずつ、3学級で学級会活動の公開授業を行った。生徒たちは、大勢の参観者が見守る普段とは違う環境の中で、リーダーの指示に従い、活発な意見交換や発表を行った。この後の研究協議会では多くの参加者から、「議長のリーダーシップと活発な話し合い活動が素晴らしかった」との感想をいただいた。2年間にわたる学級会活動に関する研究の成果を、今後の教育活動に生かしていきたい。以下に、3つの授業の概要を紹介する。

### 学級活動(1)「長者中1学年の当たり前」チェックリストより 指導者 1年2組担任 中村里美

入学当初より、授業や様々な活動の中で、学級の仲間とかかわらなければ達成できない課題を設定しながら学級づくりを行ってきた。また、生徒が自ら選択、決定して取り組む場面を増やし、学級の自主性を高めるようにしてきた。このような取り組みを通して、学校生活をよりよくしようという意識を大多数の生徒がもち、それを学級全体で共有できるよさが表れてきている。一方、改善のための思いが強すぎて、強い口調で注意をしてしまったり、自分と異なる立場や意見をうまく受け入れることができずに一方的に注意をしてしまったりというようなことも見られる。相手の多様性を認め、自分と異なる立場や意見を理解しながら仲間と協働して改善を目指していくことで、よりよい人間関係を築くことも次なる学級の課題である。

この授業では、よりよい学校生活を創っていくために必要な行動や生活態度について、①個人の意見をワークシートにまとめる。②教室を自由に移動し、学級の仲間と対話しながら各自の意見を練り合う。③リーダーが司会し、個人の意見を発表させ学級の意見をまとめる。という手順を取った。本質的な解決に迫る深まりのある対話しながら、集団としての合意形成ができることを目指した。意見をまとめる際のリーダーの活躍が見事だった。



### 学級活動(2)お互いのよさを生かして集団の向上を目指すこと 指導者 2年1組担任 窪田麻記

毎月行う生活アンケート「向上カード」において、4月末の時点では「悪口や暴言で傷ついている」といった言葉の暴力による悩みやトラブルが一番多く挙げられた。そこで学級目標を「全員安心・全員成長」とし、生徒たちの自治的活動を促すことによって自浄力の向上を目指してきた。生徒たちには自分たちの手で学校生活をよりよくしようとする思いはあるものの、勇気をもって言葉にできない、友達との関係を壊してしまうのではないかと恐るや、迷いから積極的に行動に移せないでいる生徒も少なくない。相手を傷つける言動は少しずつ減ってきてはいるが、すべての場面では改善されていないというのが現状である。

この授業では①生活アンケートなどの結果を掲示し学級の課題を理解する。②資料やデータから、自分だからこそできることを考える。③教室を移動し、仲間からアドバイスをもらいながら修正し、個人が実践することを決定する。という流れ。この活動を通して、生徒たちに自分と相手のよさを生かして集団生活を向上させる知恵や、望ましい人間関係がその集団を形づくる個人全員の努力によってつくられるという体験をさせ、将来所属するであろう様々な集団で自分と仲間の個性を生かし、「協働」して生活できる力を育てることを目指した。全員の力で学級をよきしようと意見を交流し合う真剣な姿がとても印象的だった。



### 学級活動(3)全員で作るフューチャーミュージアム～40歳の私～ 指導者 3年3組担任 柏崎康司

夏休み中の三者面談で、生徒一人一人の進路目標を確認したところ、進路達成のためにはさらに努力が必要な生徒が大半を占めていた。また、将来、自分自身が就きたい職業を答えられる生徒もほぼいない状態だった。

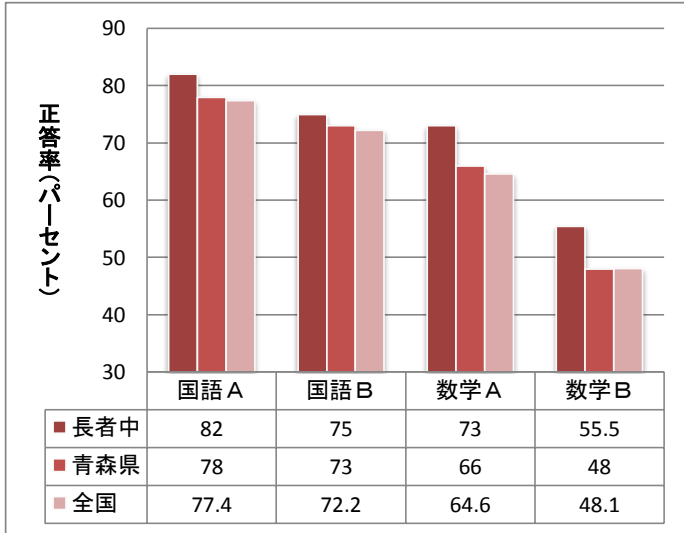
この授業は、①PCIによる画像処理でつくった「40歳になったときの予想写真」を手掛かりに、各自が未来の自分をイメージする。②フューチャーマップに全員が互いの優れている資質を記入し合うことで、生徒一人一人に自分のよさを再確認する。③「私の未来像」の欄に記入する。④完成したマップをボードに掲示し、フューチャーマップミュージアムをつくる。という流れ。自分のよさを生かした生き方をしようとする意識を高め、主体的に進路選択をし決定していく姿勢を育てることをねらいとした。今から13年後の「今の仕事の50%がなくなる」と言われる2030年、彼らが30歳を目前に控えているころ、彼ら全員が夢と希望をもって生活する「よき社会人」となっていることを願っている。「一人も見捨てることなく」が学級のキーワード。「仲間」の良い点を考え、書き合っている様子に、これまで、学校生活を通して培ってきた団結力やチームワークが十分生かされていた。



# 全ての科目で全国・青森県平均を上回りました

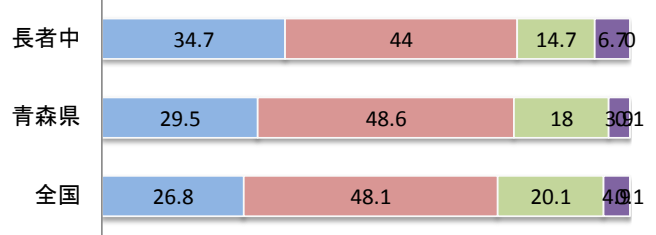
～平成29年度 全国学力・学習状況調査(3学年対象 4.24実施)～x

## ▼全国・県・長者中の平均正答率の比較

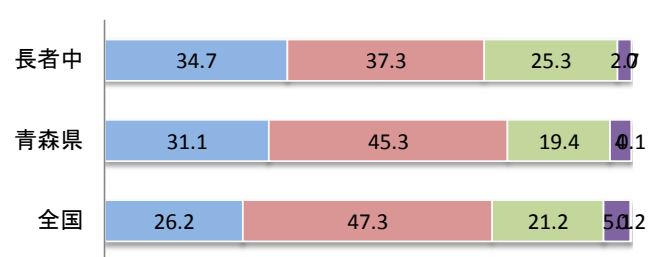


【考察】長者中はすべての科目で全国・青森県平均を上回っており、特に数学ではA・Bともに、平均を大きく上回っている。

④1・2年生の時に受けた授業では、先生から示される課題や、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか



⑤1・2年生の時に受けた授業では、話し合う活動では、内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか

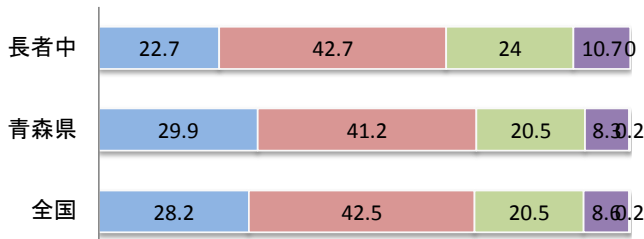


## ▼生活習慣や学習に関する調査

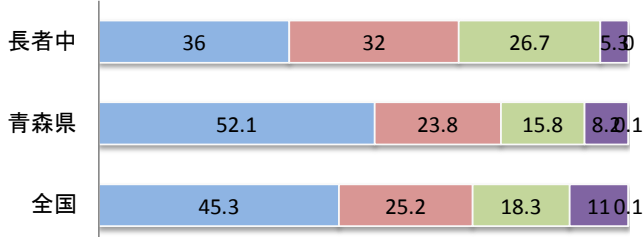
学習状況調査として、生徒の生活習慣や学習意欲、学習環境などについて94の質問がされた。その中の特徴的なものを取り上げてみた。

【凡例】単位 % 当てるはまる どちらかといえば当てるはまる どちらかといえば当てはまらない 当てはまらない 無回答

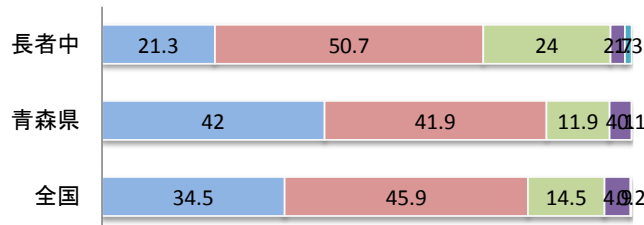
①自分には、よいところがあると思いますか



②将来の夢や目標を持っていますか

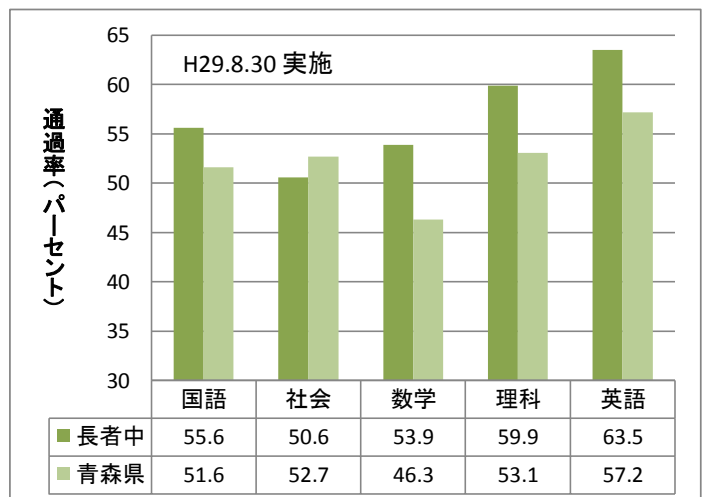


③先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



【考察】質問①:生徒の自己肯定感の度合いを示す。クロス分析の結果、各教科の正答率が低い生徒ほど、「自分にはよいところがある」と回答した割合が低く、学力との関係が深いことがわかる。質問②:子どもが夢を持っていない理由は、子どもが大人に対し、マイナスイメージ(大変そう、疲れている等)を持っていることにもあるという。子どもに夢を持たせるには、教師や親などの大人が夢について語りかけ「子どもの中に潜在している才能、を引き出してあげなければならない。質問③:教師は今以上に生徒との信頼関係を築いていかなければならない。それには、生徒に対し共感的な理解を心掛け、誠実な態度を示すとともに、教師自身が心を開いていく必要がある。質問④⑤:3年間の「学び合い」による授業の成果が表れている。「主体的・対話的で深い学び」は次期学習指導要領のキーワードである。

## 国・数・理・英で県平均上回る 青森県学習状況調査(2学年)★速報値



【考察】県平均と比較し、国語+4.0、社会-2.1、数学+7.6、理科+6.8、英語+6.3となり全体的に素晴らしい結果となった。八戸市平均など、詳しい分析については、今後発表される予定である。



